

リレー随筆

私の好きなもの《サッカー》

鹿児島県立大島病院 児島 一成

今回リレー随筆を担当させていただき、児島一成と申します。現在医師6年目、鹿児島大学病院消化器疾患・生活習慣病学に入局し、現在は鹿児島県立大島病院に勤務しております。自分で文章を書くのは苦手で、小学生時代に宿題で書いていた日記以来ですが、かわいい後輩の豊留先生からのお願いとのお事で引き受けました。拙い文章となっておりますが、最後までお付き合いいただければ嬉しいです。

私自身、大した取り柄もありませんが、唯一続けてきた事がサッカーです。幼稚園の頃から大学卒業までスポーツクラブ、部活動でサッカーを続けており、現在はドクターズに参加（年1-2回ですが、）させて頂いております。

幼い頃は前の方（オフェンス）でしたが、足が遅いもあり、だんだんと後ろの方（ディフェンス）へポジションが下がってきました。余談ではありますが、顔は日本代表ディフェンスの吉田麻也に似ていると言われており、同じポジションである自分としてはとても光栄に思っております。

最近一番印象に残った試合といえば、1月13日に行われた男子高校サッカー決勝戦です。テレビ観戦している時に流れる、うーつ向くなよ、ふり向くなよ~のテーマソングが何かが始まるようでいつもワクワクしています。

先に結果をお伝えすると、2点先制した青森山田に、静岡学園が猛追し逆転優勝した試

合でした。その前日に行われた日本代表のプレーにモヤモヤしていたそんな時、高校生たちの《勝ちたい》と言う思いがひしひしと伝わってきたこの試合が、試合終了後の爽快感を与えてくれたのです。青森山田は誰もが知るサッカー強豪校であり、何となくこの決勝戦も青森山田の個々の力が勝るのだろうと思っていましたが、静岡学園のチームワーク、諦めない姿勢で見事に逆転したのは非常に感動しました。サッカーをやっていると思うことですが、2点先制されてから追いつき逆転するのは至難の技であり、そしてそれを大舞台でやってのけたのはすごいことだと思います。

静岡学園は24年前に鹿児島実業と両校優勝して以来の優勝らしく、今年は女子高校サッカーが、神村学園が藤枝順心に敗退し、準優勝という形で終わっています。来年こそは、鹿児島県勢もぜひ頑張って鹿児島を盛り上げてもらいたいと願っております。

先日、高校サッカーや日本代表でも活躍した鹿児島県出身の前園真聖さんが奄美まで講演に来られており、もちろん見に行きました。本当は、子供連れのための写真撮影でしたが、最後には希望した皆と写真撮影に応じてくれたちまちファンになってしまいました。今ではツイッターもフォローさせていただき、ブログもチェックしております。

講演の内容も非常に面白く、時には笑いも交えながら自身のサッカー人生から学んだことを話して下さいました。同じサッカーをしていた者として、共感することも多々ありま

した。

私事ではありますが、昨年11月に結婚式を挙げ、招待させて頂きました中学、高校、大学の友人達は皆サッカーを通じて知り合った方々でした。サッカーをやっていないかどうなっていたのだろうかと怖くなるくらいでした。サッカーの練習自体は苦しいことが多いですが、辛いことを一緒に乗り越えてきたことで絆は強いと実感しました。

最近では、アマゾンプライム会員になり、DAZNでサッカーのハイライトをチェックするのが日課になっています。国内だけではなく、国外の各国サッカーも観ることができ、更にプライム会員は郵送料が無料になるため、奄美にいる自分にとっては有難いことです。一方、体を動かす機会はめっきり減ってしまい、病院の階段の上り下りで息が上がるようになってしまいました。健康のためにも適度に身体は動かさそうと思う今日この頃です。

運動量自体は少ないスポーツですが、先日初めてゴルフのラウンドに行きました。ゴルフは紳士のスポーツと言われており、服装にも気をつけなければならず、ちゃんと襟付きのポロシャツで臨みました。ゴルフボールは5個くらい紛失しスコアは150くらいと打数が多すぎて曖昧でしたが、初Parを経験することもでき、とても楽しい時間でした。何より、休みの日に朝早くから身体を動かし終われば温泉にゆっくり浸かるといのは有意義な休日の過ごし方だと感じました。今度はもう少しパットの練習をして挑みたいと思います。

今年4月からは久しぶりに鹿児島大学病院への勤務となります。病院も新しく建て替わり、新しい環境下で色々戸惑うこともあるかと思いますが、コツコツ頑張っていきたいです。きつい時には学生時代のサッカーの練習を思い出し、自分を奮い立たせ、消化器道に精進したいと思います。

まとまりのない文章となってしまいましたが、最後まで読んでいただきありがとうございました。お互いにまた日々の業務に向き合い頑張っていきましょう。

次号は、鹿児島県立始良病院 精神科 富永佳吾先生のご執筆です。
(編集委員会)

